

第10回図書館総合展/第3回IRIが選ぶ「Library of the Year」パネル4

第3回 IRIが選ぶ「Library of the Year 2008」
九州大学ユーザーサイエンス機構「絵本カーニバル」
子どもプロジェクト

推薦文



常設ではない「絵本カーニバル」を敢えて推薦したのは、そのあり方に触れることによって、図書館活動の本来の意味や活動形態を問いかける契機になると考えたからだ。通常の図書館は、恒久的な建物の中でサービスが提供されるため、人々の成長の果実を結んでいく大木のような施設イメージがある。それに対して「絵本カーニバル」は旅する根無し草のようだと喩えることもできよう。しかし、その思想やノウハウの「種」は、各地で広がり育ち始めている。その「種」が公共図書館などに広がることを願って、ここに推薦する。（「絵本カーニバル」の概要については後述参照）。

①市民がつくる「どこでも図書館」

一般的に図書館では「待ち」のサービスがほとんど言えよう。広域にサービス展開を行うため移動図書館等も行われているが、その際は、サービスを受ける側が「待ち」の態勢となる。しかし、「絵本カーニバル」は、市民や開催地の機関が実行委員会をつくり、開催する方式をとっている。九州大学ユーザーサイエンス機構子どもプロジェクトは、絵本（蔵書数6000冊）と展示什器を貸し出し、開催までのサポートはするが、あくまでも主催者は地元住民であることにこだわりを持っている。こうした運営や実施方法こそ、今後の公共図書館におけるアウトリーチ活動のあり方を示唆していると言えないだろうか。

②まちづくりへの貢献

開催する際、実行委員会方式で行っているため、開催後、参画者はスキルアップし、人的連携が強化されるという成果を残している。「絵本カーニバル」の催しは、図書館とは限らず、公民館・美術館・科学館・文化ホール・福祉施設・高校・病院などでも実施されおり、共催で実施されることもあるため、開催後の連携を深める契機となっている。また、絵本のテーマ選定や会場デザインも、実行委員会メンバーで検討されていくため、キュレーションの力をつけることができる。つまり、「絵本カーニバル」は、人材育成の場にもなっているのである。さらに、絵本のテーマ選定の際、地域特性を生かして決めるよう、子どもプロジェクト側からアドバイスがなされるため、「絵本カーニバル」は、地域の価値再発見の場ともなっていると言えよう。

③本の力

通常、図書館は知的資源として本の他、音声や映像などのメディアを集積し、体系的に市民に提供するサービスを主目的としている。「絵本カーニバル」は、地域での子どもの居場所づくりのための活動定着を目的としている。絵本は、そのための媒体として生かされている。「絵本カーニバル」の開催者たちは、絵本や本の持つ力を信じているように思える。自分たちの今の姿や未来のことを考えるきっかけを作り出す力が、本にあることを。図書館関係者は、本やメディア本来の力を改めて問い直し、図書館の役割やサービスのあり方を考え直すことも必要かもしれない。「絵本カーニバル」は、そうした問いかけを発しているように思える。

④デザインの力

「絵本カーニバル」を主宰する九州大学ユーザーサイエンス機構子どもプロジェクトでは、2006年、2007年と続けて「子どもとともにデザイン展」でグッドデザイン賞を受賞している。「絵本カーニバル」における会場デザインも優れたものだ。そこには、「時間」「体験」「目線」「光と闇」等がデザインされ、参加者を包み込む居心地のよい環境が創り出されている。「絵本カーニバル」のデザイン思想は、図書館関係者に「本と対話しやすい環境」を再考する契機を与えてくれると信じている。



活動機関情報

機関名 九州大学ユーザーサイエンス機構・子どもプロジェクト TEL 092-642-7264
所在地 福岡市東区箱崎6-10-1九州大学箱崎キャンパス工学部内 URL http://www.kodomo-project.org/

活動の特長および概要

①「絵本カーニバル」のはじまり

絵本カーニバルは、1997年から全国（東京、横浜、岐阜、大阪等）で開催。主宰は目黒実氏。

②九大での「絵本カーニバル」

2005年に目黒氏が九大子どもプロジェクトを開設してからは、「絵本カーニバル」は九大のアウトリーチ活動として実施されている。これまでに、山都町、志摩町、宗像市、福岡県、熊本県、浜松市、沖縄市、明石市、みやま市等で開催されている。また、九州大学小児医療センターと連携し、小児病棟でも毎月一回、1週間の会期で絵本カーニバルを開催している。

③ユーザーサイエンス機構子どもプロジェクトとは

「『子どもたちの究極のユーザー、真のオーディエンス』として捉え、『子どもの感性』をキーワードに既存の学術分野を横断する実践的な子ども未来学の創出を創出し、地域社会においての子どもの居場所構築、子どもの感性を生かしたメディア・コンテンツ開発、医療・司法・行政などの現場においてもデザイン的なアプローチで総合多面的に解決できる新しいプロセス創造・キャリアパスを目指します。」（「絵本カーニバルのつくりかた」2008年3月1日発行より引用）

④成長する「絵本カーニバル」

今後は、国内にとどまらずアジアでの開催も視野に入れている。また、絵本にとどまらず、児童文学・詩・評論を含めた「子どもの本のカーニバル」「ジュニア・トイ&ボードゲームカーニバル」「子どもとともにデザイン展」等、新たな子どもたちの居場所づくりの活動も始まっている。